

全国教頭会研究大会参加報告

平成22年度全国教頭会研究大会は、第8期全国統一研究主題「生きる力をはぐくむ豊かな学校をめざして」のスローガンを掲げ、北海道旭川市において開催された。

1日目は開会行事の後に郷土文化紹介として「旭川チカップニアイヌ民族文化保存会」によるアイヌ古式舞踊の紹介や旭川市立緑が丘中学校と旭川商業高等学校のそれぞれの吹奏楽部の演奏が行われた。その後の全体シンポジウムでは「心を通い合わせ 人間力・教師力・学校力を高める」をテーマに話し合われた。

2日目の分科会は6課題7分科会に分かれそれぞれの会場において開設された。そのうちの第3分科会は旭川グランドホテル3階「瑞雲の間」で行われた。参加者数は約350名。各テーブルに7～8名が集い、44のグループを作った。秋田県から一本、北海道から2本の計3本の実践が報告された。はじめにパワーポイントで発表され、続いてグループ毎の研究討議が行われた。最後に3つのグループの代表がそれぞれの討議内容を発表するという、所謂参加型の分科会であった。その発表の一端を報告する。

「生きる力をはぐくむ家庭・PTAおよび地域社会、他校種との連携と教頭のかかわり」

{提言者} 北海道日高地区小中学校教頭会 様似町立鶴苔小学校 橋本誠司 教頭

日高地区教頭会では、他校種との連携として特に幼(保)・小・中・高との連携のあり方に焦点を当て、教頭の働きかけにより連携を深めることで互いの教育活動を理解し、教育活動の充実を図ろうと研究を進めてきた。まず、連携の実態把握を行い、次に連携の課題を把握し、それらを元に教職員の意識改革を促す働きかけの工夫や連携が効率よく行われるための組織の工夫に取り組んできた。

具体的な取組みとして、シートフレーム(日高地区教頭会のオリジナル)を開発し、それを活用することで協働性・継続性を高めながら研究を進めた。その中で、教頭としての関与生を「問題をいち早く見つける(情報収集、見通し)」「学習の場、話し合いの場を設定する」「関連性の高い分掌や係りとの連携、協力を図る」「取組みを継続する」「職員の意識化を図る」「外部への情報発信や協力を依頼する」と6つに分類し職務遂行に生かした。また、アンケートから連携のための組織やその活用の仕方を明確にし、成果や課題についても明確にしてきた。

研究の成果として「小学校教員が幼保との連携の必要性を実感」「積極的な情報発信を教育活動に活用」「小中連携による保護者の信頼獲得」などとまとめられた。

3日目は旭山動物園前園長の小菅正夫氏による講演「北の大地でたくましく生きる動物たち」のお話を動物たちの映像を見ながら聞くことが出来た。新しい発想から「行動展示」を取り入れ、動物たちの自然な姿そのものに触れる動物園を創造してきたそうである。

北の大地での、生きる力をはぐくむ3日間の充実した研究大会であった。

(東山梨教頭会研究部長 津野浩二)